

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

3/Color
Black

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

七

繪本月霄

1799
7
へ遠 13



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

月宵物語後談卷第二

江戸 桃華園 著

浅間神社電火

夫信濃の國淺間がどけとの六日本三箇の嶺はて士峯小峰はゆる

高山より北に上野の國あうはのつりまを瓜つね南の原の野を

を合せく東西三里二十余町が間植科依久の西郡ままかり

小のえて居敷のうちより畑を世彼火龍の皮毛と織て火虎布をつれ

るゆは世の蕨魚もかやとばう思りう出谷百七拾一の農産有て

其草瓜世赤石を生中中におくは各地樹がま猿と猪と

りる所は人跡のあふるおあわび沼峯産空をう金たて雲の

壁の屏風をくそ懸間雲はつくねを暑小向う糸のつら

半膝より腰あした小林森より雨を起せりかれは



まゝいで糧熊身がくまのすかゝるれ昔より山火焚くは
まみらほをいひつゝもまども雅有て見へぬものもあつても
たりの税をきけてる事の中あつたれどもえろ火焚といふ
いふは山火の氣象なり申す由り山火の瘴氣をば火焚は
つ種々の異形をあらじあるは雨雲小和して沖天子没入
悪事成るぬる家のうらまひきまきなりて天火とあり
午時馬頭等たつちと見えろ地獄が舌の釜申より出で
むらひまありや向あつた地獄落しとむらゝの事ありと
お墨所見するものあけまはる人々おぼろげなるもまゝ
元來地獄極楽等の事ハ仏説の法華經にて無量の方便
れども始終の観念のいふもあつて人鬼常位の心の中か
れ道をのびの軍いふより無量の悪魔をかへむらゝの
ねんていふより地獄極楽畜生の三悪道もわく事ほども
あつた諸善を行の家はあまらざる程の慶をかへて結生
結する事始てうがなき事いふあつたれども火焚といふ
而の早業おびつゝ極の辨といふもの小愛化し辨とい
又切を徑て硫黄の瘴氣を感てつゝつゝ火車といふもの
の回小あつとつゝゆらふ心氣のまを回をうかひ辨極の
死人の尸小魔おびつゝ悪事の空を付入り生らるもの
はうとゆくと世間をのため一又るは申小あつたれども
いてと多くあつといふもちて非見の里小あつたれども
其火車といふものなりあつたれどもつてははとあつた
勸むるを

火道をのびの軍いふより無量の悪魔をかへむらゝの
ねんていふより地獄極楽畜生の三悪道もわく事ほども
あつた諸善を行の家はあまらざる程の慶をかへて結生
結する事始てうがなき事いふあつたれども火焚といふ
而の早業おびつゝ極の辨といふもの小愛化し辨とい
又切を徑て硫黄の瘴氣を感てつゝつゝ火車といふもの
の回小あつとつゝゆらふ心氣のまを回をうかひ辨極の
死人の尸小魔おびつゝ悪事の空を付入り生らるもの
はうとゆくと世間をのため一又るは申小あつたれども
いてと多くあつといふもちて非見の里小あつたれども
其火車といふものなりあつたれどもつてははとあつた
勸むるを

善行のいとはて悪行のいとはて
 の長者といふは國ふるふかき其富のめるれといふ成宿世
 因縁やありかりえまゝ現當の贓やその身ふえらうてんかゝる黒刀月が
 ぬき悪人を毒として世間小鬼とまよふせつゝ家の名をけははる淺
 りもまゝこゝまゝ一奉り黒刀月がゆふの目をかゝるて重り神相伝増の
 祈念よもまほさく名医良劑の御小も更子効ほして狐狐まましくま
 けじく姑めれやどより食物一粒よりとも食すことあははては湯
 小一滴をも通さば肉は落て麻のふれをさうりて不しなるがごとく骨小
 皮をまきせらる小似たりりや息も引切らんあまや命も絶えてるん
 と肉もむむむとてらるひ死に死なる半死待より外のこゝをぬき
 邪病はゆとりひうこ凡十四五日が石どの同益と夜とのわりちるく

看病のいとはて悪行のいとはて
 のかゝる小其作で寝るもあつ人の足と枕まゝして前後もわが液
 汗もあつて足方角がらじむまも耳のりも小常ありて寢食をまよ
 する者も今もあつたりりまゝふあつ夜時刻に垂らうてわがれは後
 おし小液固がけけとどろくと毒もさうてはひひがれまて長者が家ま
 わりり震動をこめられびどくにもつゝふふか者より寝たてたがひ小
 月と月日全をせしてふまほの半やるといひあつる間もや雨戸ふらる
 雨あゝれの音砂ふ小まきどきりなるしとてごうくくく吹附るも
 わりり雨戸五本が柱を徹考よくち痺さるんふつのはのう時どて
 家の内ふ入るといじく一面の煙火とあつ指ふりえ天よふまびらうら
 ぬる中小赤の鬼つ青の鬼つ火の車輪をいつまげてありくとま

ひさうつて人の眼をゆるりこぼすの如く自とよ人もわらわら
 性我情豪情はこよたゆぶるもあゝぬわぶたえ悪ぶなぐもあゝぬ
 性あの中悪い貪欲の道まの純をゆるりこぼる程そんかひりくる如く
 おいすじく物をねらて畜類の中純をを壊し善程純道ををゆるりこ
 ぼして金銀をたたくつれわばふは五年か圓をまうさげて悪徳を
 も年五十歳にて中病をけ面色崩れくふあまたとろく
 口先より歯ををぬ目眼ははゆのぞく小にて只く純をまのこかき
 こりのさほぐのたま言ひいつし程て身の悪事成をれ唯一人の好
 てゝるゝ純ををい志あていりのを孤あはじ臨終の手はゆるりて大
 るる猫の如きもの来りてぬりけあつら孤志てかまひゆるりてかた
 つ短い純を孤たきへとゆり豊ひゆるり悪事成はて身小哀州の如
 たり

たり 飛鳥飛道 延びひるるのむいまのあつらふゆ成をせし大道の
 飛鳥はみはて神も併し見そまひせたまはるるあつらふゆはゆるり
 半のゆゑ孤もゆるりふかゆ飛道のりてむい細ゆるり家のあり
 ゆゑあつらふゆ程ゆるりゆるりあつらふゆかまをゆるりゆるりゆるり
 け業園のゆるりゆるり程ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり
 のたえゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり
 ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり
 あつらふゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり
 後ありてゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり
 の曾平ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり
 ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり

のころびざしとすかじむ申多んはて負姓戚憂人のころびに
 てあざしむるをふふ不義はて家たる家先祖の貧姓はて正法なる
 中懐子返しくまれまれを思ぐう小立のりて好くば家せも祀さる
 中中のわく小積うさの丘のぐうまなくする金銀財宝積るのころ法
 施布物小分散せんとおひさちる人の後貴しとり命命りたりたしく
 而もひのせんの宝送をつててづんごいふえい代不易の長久を祈るも家後悪の余徳を
 消滅せぬおくさう悪業の因縁をかくとのわすくせんかく万徳の強きと精どく
 未来の脱の果を祈るもいんこ身一首の善根さるる鬼神の冥助預り
 くらんたる中かたつと祈りとあつるを祈る

水内つゝの孝徳

志ありらるいんね後更級山の麓なる寂莫村の剛作いさむらの母親いんね白くふ

至孝ありらるいんね年々樹の本根切る半の積りやまゝいんね是とて前
 世の因いんれいいんまいんごいんらいんふいんを果さいんばいんいいん半いんやいんありいんんいん毒いん實いんの災難を
 くらひていん言いんけいんえいんかいんくいん逆いん子いん被いん屋いんのういんちいん小いん死いんていんらいんくいんやいん不いん使いんする母の
 歎いんきいん再いん吉いんがいんかいんほいんしいんもいん細いんおいんもいん述いんすいんがいんさいんういんらいんらいんがいんくいんていん果いんあいんらいんぬ
 よいんはいんていん瓜いんのいんもいんていんあいんまいんがいん瓜いん貫いんいいんけいんそいんらいんくいん小いん葬いんのいんついんめいんはいんじいんくいんん
 志いんかいんりいんのいん過いん福いんをいんほいんねいんくいん小いん燈いんのいんたいんおいん悪いん後いん善いんをいんもいん早いん愛いん想いんをいんていんまいんて
 しいんもいん子いんをいん即いん小いん心いんをいんらいんらいんていんれいんどいんそれいんはいん経いんのいん病いんやいんれいんびいんじいん多いんるいんをいんて
 る瓜いん燈いんひいんていん後いんりいん小いん舟いんをいん失いんひいんついんるいんんいん地いんていん遭いんらいんるいんがいん鬼いん小いんもいん角いん中いんもいん善いんをいんて
 おいんまいんといんいいんついんらいんていん是いんをいん飛いんくいん悪いん事いん小いん組いん一いん向いんをいんもいん山いん捨いん即いん吉いんといんもいんついんまいんて
 向いんしていん伯いん母いんもいんもいんういんしいんくいん形いんをいんていんれいんぬいんのいん果いんあいんらいんぬいんるいんんいん人いんのいん心いんをいんて
 小いんぞいんおいんひいん志いんれいんらいんかくいんていん剛いん作いんのいん悪いん業いんのいん福いんをいん死いんをいん逆いんるいんといんもいんもいん孝いんんいんといんて



剛作の呉
孝女とけくをふ

初吾後火...



白ろを

卯吉

...

けり候定めてかゝる秋子先程有る小瀬の天網言さる中世が更級の星
 焼接山の景色見んとてかへは上田の宿の中陣小瀬をせせをたひつて
 今宵八景の宿に泊りてとある古寺小中より取返ぬふ休宿の宿
 六長者の家より好を按さるふ主人主婦の舟に降りといひ子さ
 能が病といひ今子さへはげしむる者きんも病るをすく死すを
 むぬきとて要致つむむが如く日比んをかける小仙も中て
 下宿る小遠の宿あふふとこまむらうの狗等用悪念のたまはれ
 きあたるが按相違してきちが病ひ日少く快方よなびらぬ音人の
 小瀬うち中風を病りぬの下帯あむるふ美あて企謀のし
 りもづるに惜といひしてきちが失ふや悪徒善あふも
 けり候てとある酒屋を夜をぬくるとふて密半も人の耳に
 と善たまはれをせむは念地の実たしと違ある崩が宿のさへ
 の辻置まのりていそふ條針をぞちづしなる

聖場池の白波

叔亦くふ先達一とち大破の禪修に善光寺小傍る還す用
 と信濃の界なる中より小て要よみそ別まうは女道く小わらう
 佐久の郡なる野井決といふ宿つとあきくつらるが悪徒善あが
 湖の博打たむかかれ野井決をきり出志むく別宿といふ宿の
 宿かかぬるれいしかの博打の積ま積ましてはく宿よりあひさ
 かわり旅宿の代はじかたままきとせむふらありてあてい成
 女をまづめてはくあんなとくむえよう悪徒の中よりとむも
 ねい申ぐだぬりのまあじとゆくのそつりしてらる坂いきど
 ね



市ノ五五後火ノ...

二人の
悪者婦人
おんまへにする

文
六

十四



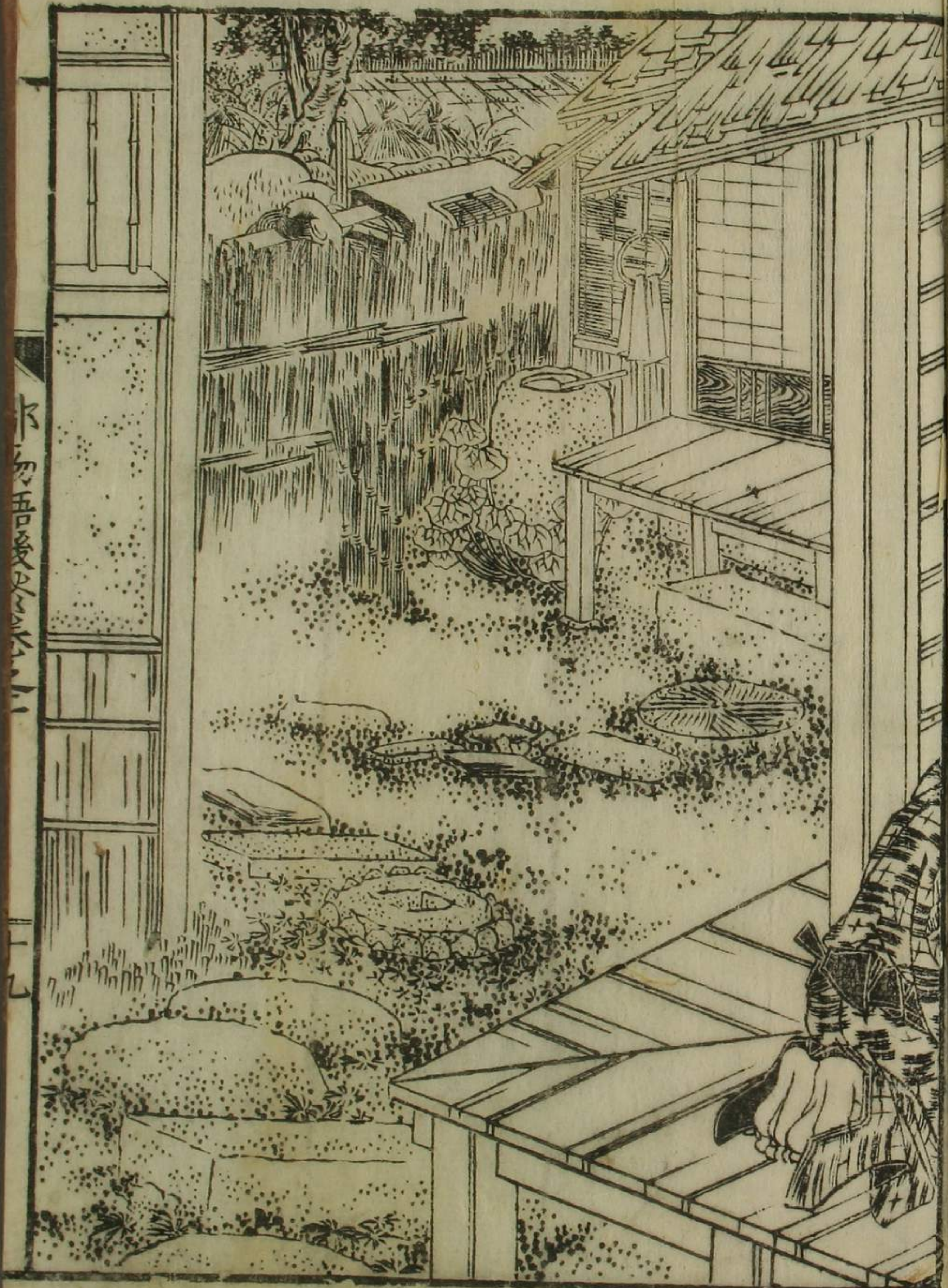
...

善
大

尚掛輕井の圓一夜の變りなれる者と早くも豊城見てもるや今迄に
 善きといふの運なるありきと秘すやおひ又夢たの多成り
 て振りぬふ小きしれかればゆはあれきといふをいといふ二人をわり
 く抱きせんとい語りある所さうして小判むいふ行あり見せて所申と病
 の下城とさうなり欠六善きといふに申して申と申と遊うけふ小遠水
 むうの方より燈籠の光三つ四つとえく鞍馬の後の音響えはれに
 り人目子かりおひよかほと將ののび小舟ひききて友人道行人を
 さげぬる小縁人のまぐまぐりて女をたぬ一何せりのをばは難きを
 救ひたまらへして已れら友人の半成若ぬらぬこは淫文もまづれるり
 て小舟隔きしてぞうせりなり小舟幸て来り人へ推すぞと思ふ
 小舟寄碇の岸下縣の小舟船中て家の人子幼連としてかく早急小

急なる孤女を救ふ事
 上田里の歌言

かくて剛強の陣知れぬ長き事小あはれいひいひ白く志小孝業を臣
 其國ををり母の枕ををり冬は小舟を覆ふをれあて
 女秋は五つ目紙巻て母衣のうまを重ねて飲食お小低ひは
 のぞくはむせらる小舟寄碇より二人の援助のりとりいも人ありて豊
 せらるる畜奴も男わらるれい上は靴を働かたて母も安ん
 こらば城の秋路小舟を食縁の人の物かち持ほどて錢を
 秋はは家子降りて是は履業靴を小舟作り戒の途を織り母を
 送行人も善光寺の者如去とて殊の外に賞美し美人の早は
 せりく豊美あまし初より見る人ぬも振きてはりのあははつり



水物言言卷之二



鬼王法師

鬼王法師
好古
和

水物言言卷之二

十八

